



SANOYAS
ENTECH
CORPORATION

100th

1925 ▶ 2025

人と技術を未来へ繋げる 100年の歴史
“Towards the new future” ～新しい未来に向かって～

人と技術を未来へ繋げる 100年の歴史

目次

故 太田黒代表を偲んで	P.02
人と技術を未来へ繋げる 100年の歴史 記念誌発行に寄せて	P.04
“想い”で OBの皆様からのメッセージ	P.06
100年の変遷 ～創業から現代まで～	P.12
管工事業の“想い”	P.18
環境装置事業の“想い”／医療廃棄物処理装置事業の“想い”	P.44
未来の自分、サノヤス・エンテックに贈る川柳	P.46
現役社員から～次の世代への“想い”～100年のバトンを繋ぐ任務を胸に～	P.50
旅の記念撮影	P.52
この先の未来へ ～最後のメッセージ～	P.53

はじめに

弊社は、我が国の管工事業黎明期と言える1925年（大正14年）10月に、冷暖房設備の設計・施工を専業とした設備工事業者「山田工務店」として創業し、戦前の近代建築作品の多くにその足跡を遺しました。

戦後、経済復興が緊急課題となり人々が復活に向け辛労辛苦を重ねていた時代に、弊社も人様のお役に立ちたいという強い想いから我が国の復興を担う使命を胸に、従来の冷暖房設備に加え、新たに給排水設備の設計・施工を営業種目とし、管工事業を営む設備工事の一企業として、幾多のビル、工場、病院、学校、住宅等の拡充に貢献してまいりました。

又、急激な経済規模の拡大と生活水準の高度化がもたらした廃棄物問題に対しては、全国的な公害意識の昂揚に先駆けて水処理技術の開発に取組み、全国各地のし尿処理場をはじめとする様々な施設で、迅速な公害発生防止を達成するため技術を発揮し、更には永年の多岐に亘る経験と技術を集約し、自然と融和した環境の創造を目指し、上下水道や農業集落排水にも進出、実績を重ねてまいりました。

新たな事業としては、医療現場における感染性廃棄物の安全な処理に着眼し、独自の処理装置の普及に尽力し、昨今では新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染症対策が人類の命を守るため必要不可欠となった時代に、弊社の医療廃棄物処理装置が病院等の医療施設で活躍しております。

弊社の歴史は、生活環境の改善を目指した使命からスタートし、社会環境の改善に想いを馳せ発展を遂げ、人々の豊かな暮らしや命を繋ぐ事業に携わることへの責任とともに、今日まで技術を繋いでまいりました。

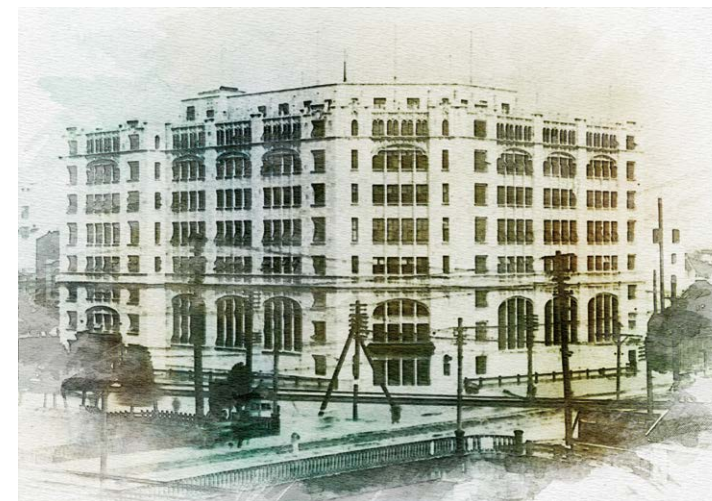
2022年（令和4年）4月には永年続いた社名「山田工業」を「サノヤス・エンテック（Environment Technology）」に変更致しました。
1984年（昭和59年）10月に“サノヤスグループ”に仲間入りしてから、サノヤスグループの1社としてグループの一翼を担い、新たな社名には「サノヤス」の冠を頂きました。今後も新社名の通り「環境」と「技術」に拘り、継往開来の心をもって更なる技術の向上とともに、社員一丸となって社を発展させてまいります。

創業以来の堅実と誠実を第一義とした経営姿勢は、さらにその先へ、
次の100年も努力を惜しまず、社会への貢献に対する情熱、その喜びを信頼に変えて

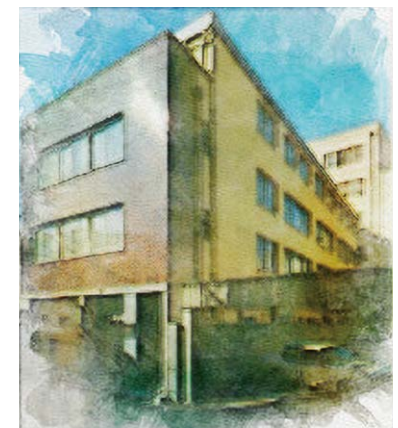
人を、自然を、想いやり
希望に満ちた 街を、環境を、創り出すために

“Towards the new future” ～新しい未来に向かって～

たゆみなき明日への一步を、着実に繋ぐ企業 サノヤス・エンテック株式会社



創業時入居ビル



本社自社ビル



研究所（実験室）

故 太田黒代表を偲んで



太田黒 尚雄

1927年(昭和 2年) 4月1日生まれ

1984年(昭和59年)10月 代表取締役社長

1991年(平成 3年) 4月 代表取締役会長

1998年(平成10年) 4月 代表取締役

2002年(平成14年) 7月 退任

“やまびこ”社内報 第5号

1991年(平成3年)2月1日 発刊より

社長 太田黒 尚雄

昨年1990年は、世界は大変なターニングポイント(転換点)を迎えました。ソ連の政治経済が崩壊しますと米ソ二国間対立の世界構造図が全く変わってしまっ、忽ち中小国家或は民族間の抗争が各地で起っております。この一月十五日の中東湾岸抗争がどうなるのか予測もつきませんが、今年はその意味でむつかしい局面が続くのではないかと思います。

山田工業、山田エンジニアリングサービスも昨年に一つのターニングポイントを迎えました。それは昨年度、即ち今年の一月末の決算で六年前明らかとなった殆ど倒産に等しい大きな債務超過をクリーンアップする見通しが確実になりました。そして愈々今年から漸く生きた企業としての一本立ちの新しいスタートをすることになります。

ご存知のようにサノヤスの方も大変な企業構造の転換を行っております。従来の造船重機会社の延長線上ではなくて、全て新しい分野を並列的に内包した連邦会社へ脱皮をするべく努力しております。そして長期目標として、二十一世紀までに新しいエクセレントカンパニー(優良会社)を目指す決意を固めております。

さて、そこで山田工業、山田エンジニアリングサービスも今年を起点(はじめ)として新しい長期目標を設定し、着実に業績を上げ、人材を集め、ハード、ソフト両面の技術力を高め、又、新しい機器を開発し、強い会社に成長しなければなりません。そして当社の仕事はお客様に対してその求めるところを満たしながら、しかも質的に非常にすぐれているという信用を確立して社会に貢献しなければならない段階に来たと思います。即ち、毎年毎年の短期の目標だけでなく長期的に計画的な目標を設定してそれに向かって積極的な施策を展開する時代が当社にも到来したと思います。

そこでまず、この一月末に立派な決算をして過去の精算をし、次年度に向かって私は、長期的計画の立案を実施したいと思います。勿論短期的には本年度の計画、これをまず立てねばなりません、つづいてまず予測ができると思われる中期的には三年の期間で中期計画を立てたいと思います。そしてさらに必ずやってくる二十一世紀に向かって、十年たったら当社はこんな形になれば、と云うふうに考えてみたいと思います。これは営業、技術、工事、メンテナンス、機器製作の各方面で二十一世紀には同業中、質的にもすぐれた優良会社になりたいしそのために着実な歩みを重ねるような計画を考えてみたいと思っております。

以上のことから、今年を当社の第二の新しいスタートの年にしたいと思います。経営にあたりましては引き続き私はオープン方式を採っていきたいと思います。皆さんのご意見を謙虚に承って「明るく、風通しのいい前向き」の会社にしていきたい、このように思っております。どうかご一緒に協力のほどお願いしたいと思います。

我々は山田工業創業の時から初めてありますが、また今年も第二の我々の創業だと思っていただきたいと思います。それともう一つ、よく仕事の上でベテランとか、道を極めた者とか或は最も熟達した人、或は人間国宝と言ってその人を讃えることがございます。が、それは間違いと言うよりも誤りを犯しやすい…。その前のその人々の辿った永い忍耐を忘れてはならない。

我々の仕事もこの意味では長い現場の努力の積み重ねからくる技術的な優秀性がなければならない。営業も現場もこれを忘れてはならない。我々の仕事にはその前にやはり何年かの忍耐と努力が要ると私は常に思っております。

どうか一つ当社の場合も営業或は設計、或は技術、工事、夫々の現場で、機器をつくる人はその製造の現場で、その現場から入ってくる情報と言うものを重視して忍耐強くコツコツと努力いただきたいと思います。

以上色々申し上げましたが、今年も皆さんとご一緒に地味でもいい、一味違った、明るい前向きの社風の会社にするべくご一緒にやりたいと思います。ご協力ください。

以 上

代表取締役社長就任当時より、
何時どんな時も、そのお優しい笑顔を絶やさず、
働くことの喜び、厳しさ、そのやり甲斐を
愛情とともに惜しみなく、私たちに与えていただきました。
太田黒代表の“想い”を受け継ぎ、感謝の気持ちを忘れず
未来へ～ さらなる飛躍を誓います。



人と技術を未来へ繋げる 100年の歴史

記念誌発行に寄せて

「サノヤス・エンテック創業100周年」祝辞

サノヤスホールディングス株式会社 代表取締役会長 上田 孝



1925年(大正14年)10月に、冷暖房設備工事の設計・施行を行う業者として大阪市西区で産声を上げた当社は1948年7月に山田工業として法人創立した後、1984年10月にサノヤスグループの一員となった。

当時のサノヤスは同年8月に「佐野安船渠株式会社」から「株式会社サノヤス」に名称変更した直後であり、親会社の社長は太田黒尚雄氏であった。太田黒氏は1981年にサノヤス三代目社長として住友銀行から入社、当時は造船不況のため経営が悪化し債務超過の状態であったが、造船の再建とともに経営を安定させるために事業多角化を基本戦略に据えた。

その多角化戦略の下、山田工業を買収した訳であるが、太田黒氏は山田工業社長を兼務し新たなスタートを切り、6年半社長、7年間会長を務めた。その後8名の銀行出身社長が34年半に亘りバトンを繋ぎ、ここに創業100周年を迎えた次第である。

サノヤスグループの一員になって41年を経過、激動の昭和・平成・令和の時代を生き続けてきたが、ここに至る道は決して平坦ではなかった。祖業である造船事業を譲渡(2021年2月)した直後、4月に浅尾社長が新たに着任した。新社長はこの会社を新生サノヤスグループの中核会社の一社とする覚悟を新たにし、社名を「サノヤス・エンテック」に変更、経営理念を「全従業員の物心両面の幸福を追求すると共に、お客様の期待を超える感動をお届けすることで業界の発展に貢献すること」、品質方針を「技術力の向上と品質マネジメントシステムの確立を図り、お客様に満足される製品とサービスを提供すること」と定め、**次の100年を生き抜く覚悟**を新たにして今日を迎えた。

エンテック100周年はサノヤスグループとしても誠におめでたいことであり、故太田黒氏もきっと喜んでおられるに違いない。山田工業・エンテックの先人、現役役員や従業員の皆様に心からお祝いと感謝を申し上げますと共に、更なる発展・成長をお祈りしたい。

夢のある会社～おもいやり～のスローガンとともに

サノヤスホールディングス株式会社 代表取締役社長 北達 伊佐雄



サノヤス・エンテックの皆さま 設立100周年誠におめでとうございます。

サノヤス・エンテックがサノヤスグループに入りましたのは1984年10月のことでグループ入りしてから40年が経たんとしています。

当時は山田工業という社名で業績の振幅が激しい造船事業においてその波を少しでもならかにするという目的でグループの一員に加わっていただいたものと伺っています。

グループ入りからの業績は必ずしも順調ではありませんでしたが、1996年度の決算においては売上高78.7億円、営業利益1.3億円、続く1997年度は売上高75.8億円、営業利益2.3億円とグループの業績に大きく貢献してくれました。

ところで、私がサノヤス・エンテックに本格的に関わりしたのは祖業の造船事業を新来島どっくに譲渡した2021年2月のその後の戦略会議でした。2020年度の決算では営業利益は9百万円と黒字は確保していただいたのですが、売上高は8.9億円と10億円を割り込み、縮小均衡している姿が如実に表れていました。また従業員数も39人と過去最少人数で先行きはどうかかわからない状況で従業員の士気も上がるはずがありません。そこで、当時の経営陣の方々に働いている皆さまにとって夢のあるような会社にするように考えてくださいと依頼をしました。

それを受けて皆さまで議論をしていただき、～おもいやり～「**おおきな もくひょうに いきいきと やくどうする り**そうのみらいへ」というスローガンを掲げ、大きく舵を切ってくれたのを大変嬉しく思ったのがつい昨日のこのように思い出されます。

2022年4月には社名も変更してサノヤス・エンテックとして生まれ変わり、浅尾社長のもと「ええ会社」を目指して、また中期経営計画で掲げていただいた最終年度2026年度の目標売上高27億円、営業利益1.3億円の達成に向かって従業員が一丸となって、日々奮闘されているのがホールディングスの私にも手に取るようにわかります。

サノヤス・エンテック並びに従業員の皆さまには「ものづくり」が中心のグループの中であって是非一際輝く異彩を放って大きく成長されることを期待しています。

創業100周年のご挨拶

サノヤス・エンテック株式会社 代表取締役社長 浅尾 洋光



お陰様を持ちまして、サノヤス・エンテック(旧山田工業)は2025年10月17日で創業100周年を迎えることになりました。これも一重にパートナー企業の皆様はじめ、お取引先の皆様方とのご縁のお陰と、先達社員のご努力、ご尽力によるものと、日々感じております。心より感謝申し上げます。

当社は、治安維持法及び普通選挙法が公布され、世の中が大きく変わっていく、1925年(大正14年)10月に山田工務店として設備工事業を個人創業したことをルーツとしています。その後、戦後間もない1948年(昭和23年)に従来の冷暖房設備に加え、新たに給排水設備の設計・施工を営業種目とし、管工事事業を営む設備工事業者 山田工業株式会社として法人改組致しました。

1959年(昭和34年)、事業の多角化を目指し、世の中の急激な経済規模の拡大と生活水準の高度化がもたらした廃棄物問題に対して全国的な公害意識の昂揚に先駆けて水処理技術の開発に取組み、全国各地のし尿処理場、上下水道や農業集落排水等へ水処理プラント設備を提供し始めました。順調であった経営でしたが、1970年代に2度にわたり発生したオイルショック等の影響により日本経済も大打撃を受け、当社業績も低迷を極める状況となりました。その環境下、1984年(昭和59年)10月SMBC(旧住友銀行)の仲介により、現在のサノヤスグループ傘下となり初代社長を当時のサノヤス造船社長の太田黒氏が兼務することになりました。

次に、2000年(平成12年)医療現場における感染性廃棄物の安全な処理に着眼し、独自の処理装置の開発と販売に尽力し、医療廃棄物処理装置が病院等の医療施設で活躍しております。

この様に、当社は管工事部門、環境装置部門、医療装置部門の3本柱を主業として経営して参りました。この間、プラント事業(環境装置)に関しては、繁閑の差が余りにも大きいため、撤退しメンテナンスを主軸にしながら、前処理機の製作も進めております。その中で、主業務である管工事部門においては社員の高齢化が進み、事業の縮小化も検討せざるを得ない局面を迎えましたが、社員一丸となり再生レジェンド山田工業の復活を目指し、取組を開始しました。

まずは、管工事人財の補強です。従来より目線も変え、キャリア採用にも注力し、即戦力となる人財確保。その為に、社名を変更し永らく親しまれてきた山田工業より現在のサノヤス・エンテックに変更。サノヤスグループの1社として自覚を高め、グループ経営の一翼を担う意識付け。合わせ人事処遇の改訂。従来、経営環境の厳しい時代が続き、処遇水準が低位で有ったことから、現在のHDグループ水準への上方移行を実施しました。建設業界特有の問題でもある、離職率を抑える点も合わせ、キャリア採用若手の早期育成も兼ね独自の社内研修の取組も開始致しました。

2021年度より開始した施策は未だ緒に就いたばかりでは有りますが、2024年から2025年と利益水準も回復傾向にあり、24-26中期経営計画においては、初年度2024年度は全ての主要項目で予算過達と順調な滑り出しをしており、既に2025年度計画も十分捉えたものと思料しています。

現在は、同時並行で「Revival50」プランをスタートさせ、2030年度を目指し、レジェンド山田工業の復活を目指しております。年間売上50億円、営業利益3.5億円がその目標値ですが、過去山田工業時代のピーク年間売上80億円には届きませんが、営業利益では過去ピークを目指します。

此処に至れたのも、プロパーの社員、キャリア採用の社員の皆が力を合わせ、同じ目標に向かい全力で努力してくれている賜物と信じており、心より感謝申し上げます。

「Revival50」、目指す2030年は創業105年にあたります。

お陰様で無事迎えられた100年を次の世代へ繋ぎ、

次は無事に105周年を迎えて、

その後も成長していくサノヤス・エンテックに期待しています。



今、“想い”を馳せる 創業 発祥の地へ

創業からの“想い”を引き継ぎ、Revival 50～復活へ

～戦争を乗り越え、サノヤスグループ参入までの軌跡～

2025年 昭和100年

創業の地～大阪で万国博覧会が開催される記念の年に、100周年という輝かしい節目を迎えた弊社の歴史は、1925年（大正14年）初代社長山田文次氏により創業された「山田工務店」から始まる。

「山田工務店」は、当時大阪市西区土佐堀通に存在した旧大同生命ビルに事務所を構えた。これが、後に我が国の管工事業を牽引する会社へ発展を遂げるスタートとなる。

土佐堀川沿いにあるモダンな建築物でひととき存在感を放った旧大同生命ビルの落成は、弊社創業と同年の大正14年。この旧大同生命ビルには、大同生命はもとより、加島銀行、十合（そごう）百貨店ほか有名企業も入居しており、当時本ビルから事業を開始できたことが信用信頼の証であった。装飾用大型陶器テラコッタが貼り巡らされている美しい壁の景観は、第二次世界大戦の戦時中、激しい空襲が何度も大阪の街を襲う中、崩れることはなかった。1942年（昭和17年）に本社事務所を移転するまで運命共同体となる。

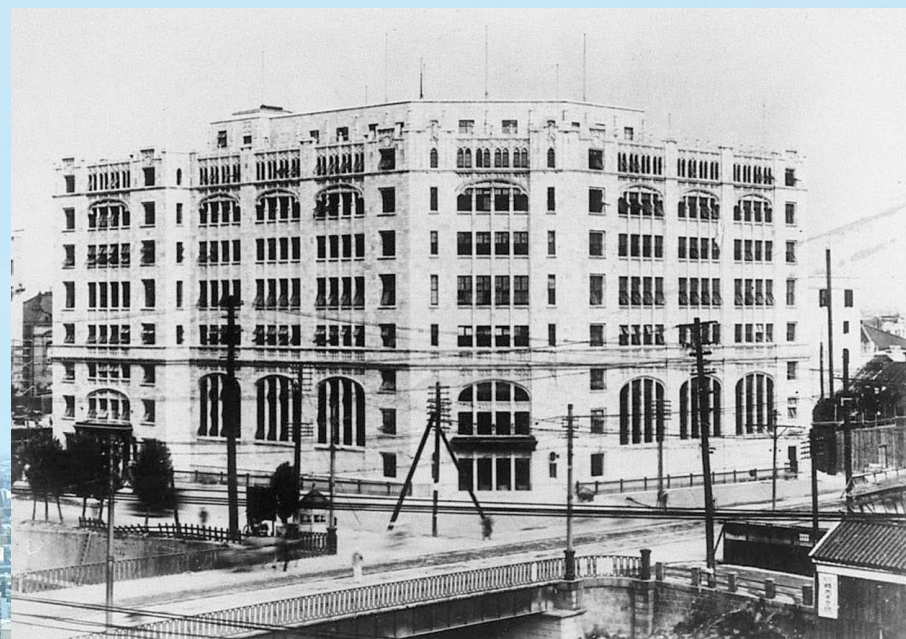
戦後の混乱を乗り越え、「山田工業株式会社」に組織変更。

1959年（昭和34年）本社自社ビルの新築落成をきっかけに、管工事業の施工管理の更なる技術向上、環境装置事業として開発特許取得（ヤマダ式ロータリードラムスクリーン、ヤマダ式スクリュープレス）、その他、新型コンピューターを導入し事業拡大をはかる。建設業法にて大臣許可の認可を達成。更にはメンテナンス事業に注力するため、子会社「山田エンジニアリングサービス株式会社」の設立に至る。

その後も技術を極めることに邁進し、平成の時代に新事業となる医療廃棄物処理装置事業にも繋がっていく。これは、お客様の信頼を勝ち取る礎を築くことができた、かけがえのない時代であった。その後、1984年（昭和59年）にサノヤスグループに参入し、新たなステージに突入することになる。



1959年 本社新築自社ビルへ移転

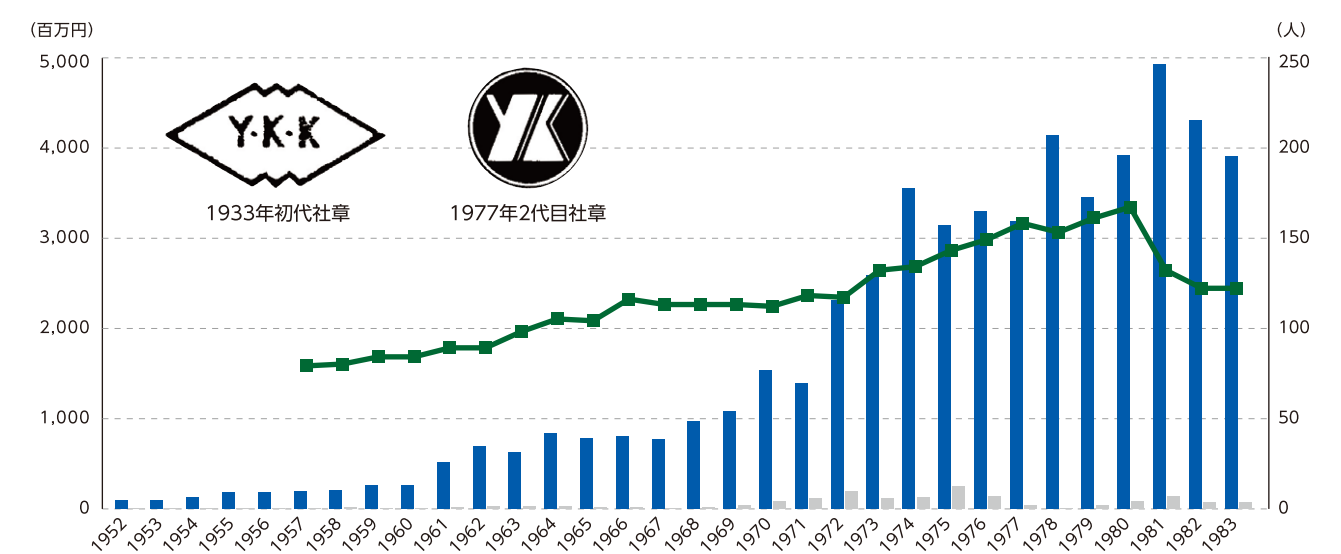


1925年 創業時本社（旧大同生命ビル）

サノヤスグループに参入するまでの沿革

1925（大正14）年	山田文次により「山田工務店」創業（大阪市西区土佐堀通） 暖房、汽缶、給湯、給水設備事業開始	1962（昭和37）年	ヤマダ式スクリュープレス、汚泥焼却炉開発 前処理装置として販売開始
1933（昭和8）年	社章制定	1964（昭和39）年	環境装置事業ヤマダ式前処理装置が軌道に乗る
1934（昭和9）年	大阪市立美術館、動物園、植物園等の大型受注で 事業基礎固まる。	1967（昭和42）年	下水処理場向け事業開始 名古屋支店開設（登記）
	冷房、温調設備事業開始	1968（昭和43）年	八尾市し尿処理施設 施工
1935（昭和10）年	合資会社「山田工務店」に組織変更 給排水衛生、焼却設備事業開始	1970（昭和45）年	業界に先駆けてコンピューター導入、 計算処理合理化図る
1937（昭和12）年	名古屋営業所開設（但し、終戦後閉鎖）	1971（昭和46）年	堺市三宝下水前処理施設 施工
1942（昭和17）年	本社事務所を移転 （大阪市西区京町堀上通一丁目）	1972（昭和47）年	建設業法（認可） 建設大臣（特）47 第二八六四号交付
1945（昭和20）年	戦時下、軍需工場向けの成約集中	1973（昭和48）年	福岡出張所開設
1947（昭和22）年	大阪市給水工事公認業者（認可）第二二八号	1975（昭和50）年	創業50周年（大阪プラザホテルにて記念祝賀パーティ） 大牟田市し尿一次処理施設 施工
1948（昭和23）年	「山田工業株式会社」に組織変更	1976（昭和51）年	東京支店開設（登記）
1949（昭和24）年	建設業法（登録） 大阪府知事（い）第〇三六五号交付	1977（昭和52）年	社章改定、環境装置事業研究所、資材倉庫設置
1952（昭和27）年	大阪市指定水洗便所工事施工業者（認可）第一七五号	1978（昭和53）年	福岡支店開設（登記） 大阪駅前第4ビル給排水衛生設備受注
1954（昭和29）年	建設業法（登録） 建設大臣（メ）第四九二三号交付 神戸営業所開設により、大臣登録取得	1981（昭和56）年	子会社山田エンジニアリングサービス株式会社設立（山田ES） 山田ES 建設業法（認可）大阪府知事（般） 56第六〇六六七号交付
1955（昭和30）年	創業30周年 汚水、汚泥処理、浄化槽設備事業開始	1982（昭和57）年	山田ES 建設業法（許可）建設大臣（般） 57第九九七〇号交付
1957（昭和32）年	東京営業所開設	1983（昭和58）年	大阪市庁舎空調設備工事受注
1959（昭和34）年	本社ビル新築、落成 環境装置、水処理プラント（し尿処理ほか）事業開始		
1961（昭和36）年	ヤマダ式ロータリードラムスクリーン開発（特許出願）		

1952年度～1983年度



1984-1993 | サノヤスグループへ参入

POINT

ランドマークとなる大型公共工事を受注、更なる信頼を獲得
社員数が増加、保養所、独身寮、社内報を立ち上げ、社員の福利厚生に努めた時代

当社の歴史

1984(昭和59)年 サノヤスグループ入り
1986(昭和61)年 本社社屋移転(大阪市中央区道修町)
1988(昭和63)年 創業者山田文次氏逝去(享年93歳)
1989(平成元)年 木曽駒保養所(長野県)開設
1990(平成2)年 社内報『やまびこ』創刊
1991(平成3)年 空気調和・衛生工学会賞 技術賞受賞
※花の万博「咲くやこの花館」空調施工対象
1992(平成4)年 十三寮(大阪府)竣工

時代背景

1985(昭和60)年 国際科学技術博覧会(つくば科学万博)開幕(茨城県)
1986(昭和61)年 チェルノブイリ原発事故(ソビエト連邦)
1987(昭和62)年 国鉄民営化(JR発足)
1988(昭和63)年 青函トンネル開通(青森県-北海道)
瀬戸大橋開通(岡山県-香川県)
1989(平成元)年 昭和天皇崩御、新元号「平成」時代始まる
1990(平成2)年 国際花と緑の博覧会(EXPO'90)開幕(大阪府)
湾岸戦争勃発
1991(平成3)年 バブル崩壊



ユニテック木曽駒保養所(長野県)



十三寮(大阪市淀川区新北野)

1994-2003 | 医療廃棄物処理装置事業開始

POINT

人々の命、医療現場の環境を守るため
新たな事業を展開し、社会貢献を深めた時代

当社の歴史

1999(平成11)年 感染性廃棄物を不燃性ガスを用いて処理する加熱滅菌方式開発(特許取得)
2000(平成12)年 医療廃棄物処理装置事業開始
「感染性廃棄物滅菌破砕装置サニクラッシュ」
2001(平成13)年 感染性廃棄物をマイクロ波を用いて処理する加熱滅菌方式開発(特許取得)
マイクロ波を用いた污泥乾燥炭化装置開発
2002(平成14)年 400百万円資本増資(増減資実施)

時代背景

1994(平成6)年 関西国際空港開港(大阪府)
1995(平成7)年 阪神・淡路大震災発生
1997(平成9)年 東京湾アクアライン開通(千葉県-神奈川県)
1998(平成10)年 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催(長野県)
1999(平成11)年 瀬戸内しまなみ海道・来島海峡大橋開通
世界初の3連吊り橋(愛媛県)
2001(平成13)年 アメリカ同時多発テロ勃発
2003(平成15)年 イラク戦争勃発



感染性廃棄物滅菌破砕装置「サニクラッシュ・スーパー」



廃棄物保存容器



「サニクラッシュ・ミュー」

2004-2013 | 事業を守るため苦労が続いた時代

POINT

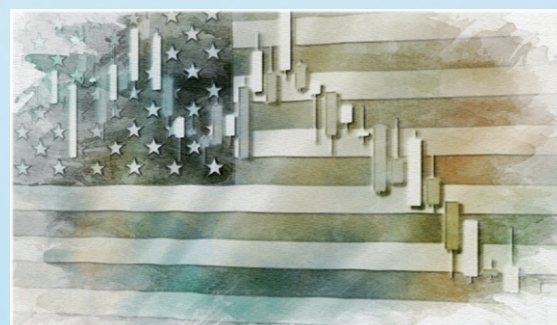
リーマンショック等、世界規模の不況に直面
リストラ・人員削減政策を実施し、苦難を乗り越える
サノヤスホールディングス体制スタート

当社の歴史

2007(平成19)年 希望退職等、リストラ実施
名古屋支店閉鎖
2008(平成20)年 500百万円資本増資(増減資実施)
2012(平成24)年 サノヤスホールディングス体制スタート
2013(平成25)年 山田エンジニアリングサービス株式会社廃業
関西経済連合会のホームページで
「サニクラッシュ・スーパー」が紹介される

時代背景

2007(平成19)年 郵政民営化(日本郵政グループ発足)
2008(平成20)年 アメリカ リーマンショック発生
世界同時不況で日本企業へ経済打撃、巨額赤字続く
2011(平成23)年 東日本大震災発生
2012(平成24)年 消費増税法が成立



リーマンショック
世界同時不況

2014-2024 | 社名変更 新生「サノヤス・エンテック」へ

POINT

Revival50～復活への序章
環境装置プラント事業撤退を乗り越え
大型・新築工事への注力、メンテナンス・ファシリティ事業へ更なる展開

当社の歴史

2014(平成26)年 180百万円資本増資(増減資実施)
2016(平成28)年 環境部門プラント事業から撤退
2020(令和 2)年 環境部門/東京支店環境装置部、本社へ統合
2021(令和 3)年 グループ再編により、
サノヤスホールディングス株式会社の子会社となる
2022(令和 4)年 サノヤス・エンテック株式会社に社名変更
サノヤスホールディングス株式会社の人事制度へ統一化

時代背景

2019(平成31)年 働き方改革開始
(令和元)年 新元号「令和」時代スタート
2020(令和 2)年 新型コロナウイルス猛威、初の緊急事態宣言
2021(令和 3)年 東京オリンピック・パラリンピック、1年延期で開催
2022(令和 4)年 ロシア軍がウクライナ侵攻
2025(令和 7)年 大阪・関西万博開幕

“Towards the new future” ～新しい未来に向かって～



サノヤス・エンテック株式会社
Sanoyas Entech Corporation

100年分の“想い”やりを 未来に繋ぐ

管工事事業の“想い”

豊かな暮らし、快適空間を創造する
水と空気にかけるプライド



人々が暮らす空間には、水と空気が必ず存在します。

私たちの任務は、人々が、安全で安心して生活できる空間のご提供。

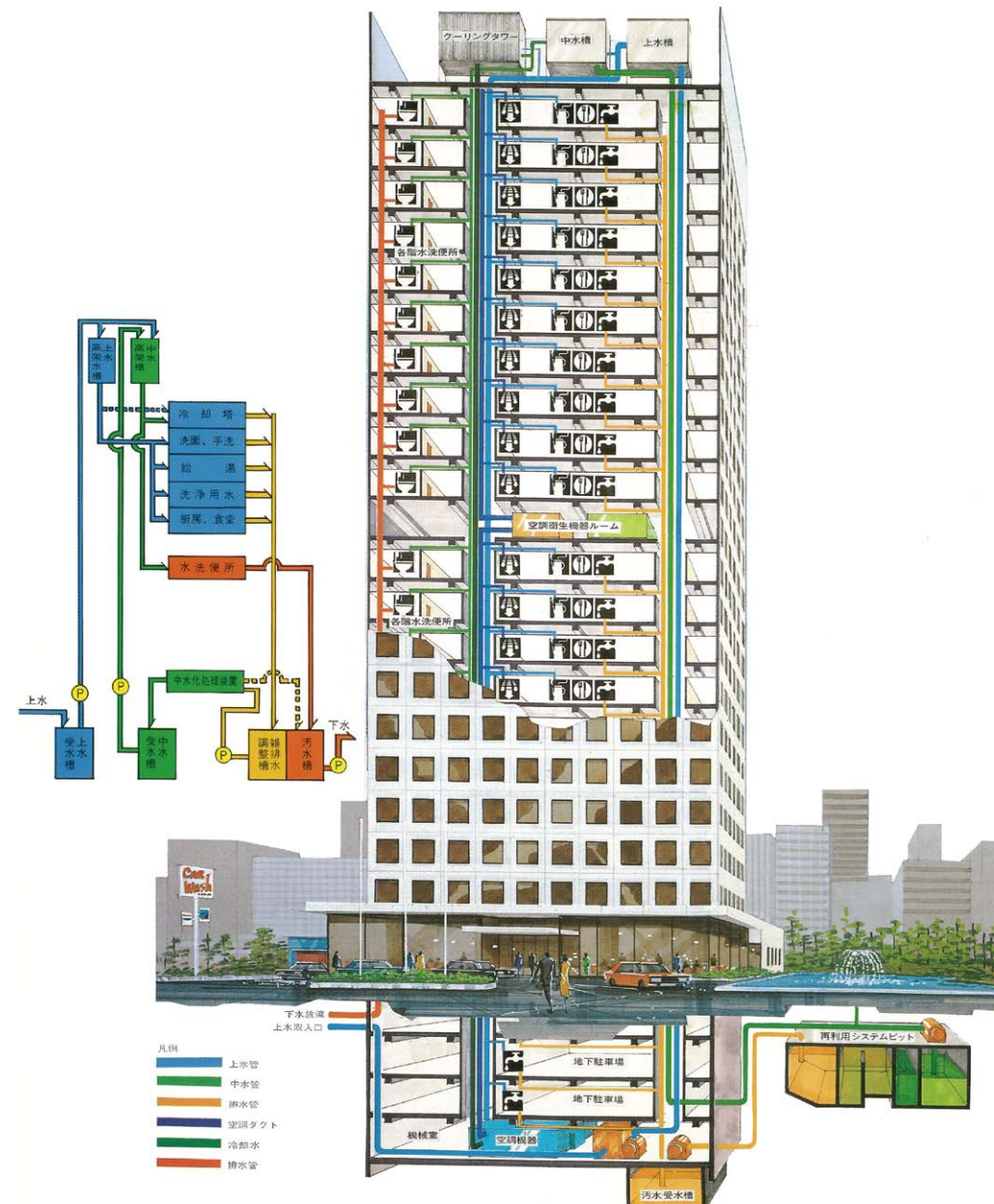
さらには、ワンランク上の快適で豊かな気持ちを共有できる幸福な空間をお届けすることです。

100年繋いだ《空気を調和する技術》と《給排水衛生設備を通して水を提供する技術》を

住宅からオフィスビル、工場、商業施設まで、多種多様な空間の快適を守るため

この先も、設備施工のプロフェッショナルとして、100年のプライドを繋いでまいります。

山田工業空調・衛生&中水設備系統図(断面図)パネル



100年の歴史の中で、東西の街のシンボルとなる 公共施設の施工に携わってまいりました。

大阪市庁舎

(施工年度1965年～1986年) 大阪府北区中之島1-3-20



第二期工事上棟式



玄関ロビー

日本橋特別出張所「日本橋区民センター」

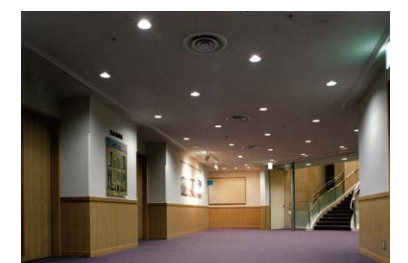
(施工年度1997年～1999年) 東京都中央区日本橋蛸殻町1-31-1



和室



多目的トイレ



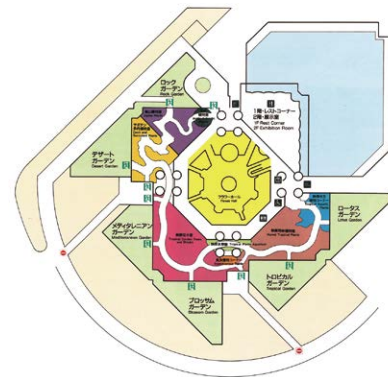
ロビー

咲くやこの花館

(1987年(昭和62年)6月に着工、建築物は1989年(平成元年)3月に完成)

画像提供: 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、咲くやこの花館、大阪市建設局

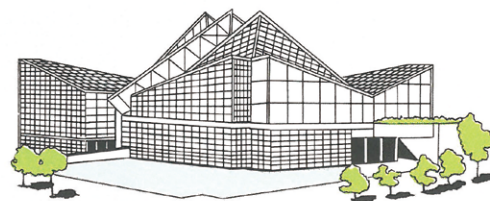
100年の歴史の中で、
管工事業と環境装置事業がタッグを組み完成した最も誇らしい施工実績の一つ。
戦後4番目の万国博覧会となった『国際花と緑の博覧会』(1990年(平成2年))
大阪市パビリオン「咲くやこの花館」の空気調和設備工事の施工を行い、
社団法人空気調和・衛生工学会より、第29回 空気調和・衛生工学会賞 技術賞を受賞しました。



咲くやこの花館は、“世界の花たちに、いつでも会える植物たちの小宇宙へ”をキャッチフレーズに1990年(平成2年)に開催された『国際花と緑の博覧会』において、大阪市のパビリオンとして建設された総合植物館で、日本最大の植物展示温室を誇ります。
“人と緑の共生”を謳った万博のシンボル施設として、その存在を確固たるものにしました。
現在でも恒久施設として多くの人々に観賞され、珍しい花々に直に感じることができる「フラワーツアー」も実施されています。



世界各地の花・植生との出逢い
極寒の地から高山、熱帯におよぶ
植物たちの地球へ



外観は約5,000枚のガラスが用いられ、
水面に浮かぶ睡蓮をイメージしてデザインされた

展示棟 外観(空気調和設備 当社施工)

施設概要 大阪市鶴見区 花博記念公園鶴見緑地内

延べ床面積6,890㎡の植物展示温室、同1,063㎡の設備機械室、その他1,244㎡の植物栽培温室で構成されています。
万博開催当時の展示温室の特色は、熱帯から高山、極地まで様々な環境で生育する世界の植物2,600種、15,000本を一つの建物の中に回遊庭園形式に展示されている点で、建物全体が巨大なガラス張りの環境チャンバーとなっています。ミニミュージアムにてラフレシアの花と蕾を樹脂で固めた展示物(国際花と緑の博覧会記念協会所有)が人気を博し、高山植物室の青いケシとともに最大の見ものとし、一目見ようと来場者が長蛇の列をなしました。

設備の特徴

世界の多種多様な植物2,600種の育成には、最大80℃の温水から4℃の冷水まで、様々なレベルの温冷熱の同時供給を年間にわたって必要とするため、省資源・省エネルギーを実現する装置、並びに大温室の主役である植物の育成に必要な不可欠な温室土壌環境を作り出す装置の二本柱で構成されています。

(1) 下水処理水を利用した環境にやさしい熱源システム

同館が下水処理場とゴミ焼却場に近いという立地上の特性を十分に生かし、熱源として下水処理場の処理水を駆動源とした、ゴミ焼却場の廃熱利用発電による電力を用いた水熱源ヒートポンプシステムです。都市廃熱を複合的に有効利用した、環境にやさしい熱源システムとなっています。

(2) 地中加熱・冷却を利用した最適な温室土壌環境システム

植物学者の皆様へ何度もヒアリングを行い、綿密な設計条件を設定することで、熱と水分が移動する状況の検討を重ね、適切な土壌熱方式を実現しました。また、地中加熱により冬期の室温の低下を可能にし暖房エネルギーの27%の省エネルギー効果を実証、さらに関西圏では一般に栽培が困難と言われている高山植物についても地中冷却設備を採用。これに空気調和設備、ミスト発生装置を組み合わせることで、盛夏における高山植物の栽培、育成を可能にしました。

第29回 空気調和・衛生工学会賞 技術賞受賞

弊社は、土壌熱方式の実現のため現場実大実験場の試作から関与し、土壌の地中加熱装置の施工及び地中温度の測定を行い、温室地中加熱設計への貴重な資料をご提供しました。
一連の設計条件を具備した「咲くやこの花館」大温室の空気調和設備工事を施工し、これらの活動が「国際花と緑の博覧会」成功の一翼を担うことができ、この実績により1991年度(平成3年)第29回 空気調和・衛生工学会賞技術賞(社団法人空気調和・衛生工学会)受賞の栄誉に浴しました。



公式キャラクター
「花ずきんちゃん」



花や樹木を守る本施設は、100年の歴史の中でひととき光る自慢の施設です。
この先の未来も、たくさんの人に利用していただき、見守られていくことを願います。

環境装置事業の“想い”

“水”は命の源

「廃棄」ではなく「再生」へのchallenge



私たちの生活に欠かせない水は、日々の生活の中で使用され排出されていきます。

「人々が排出する多種多様な汚水を、自然界に排水するのではなく、人の力で蘇らせる」

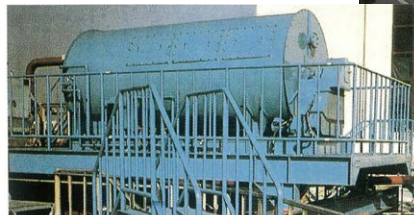
この使命を胸に、私たちは長年に亘り、環境装置事業として水処理の技術開発に強い信念をもって、取り組んでまいりました。

100年の歴史の中で、日本全国47すべての都道府県の施設に、

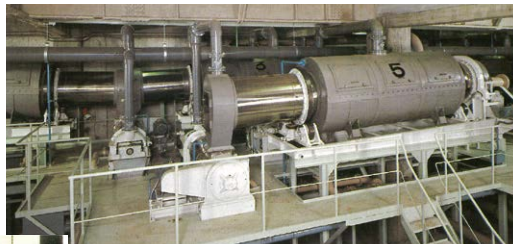
弊社のプラント設備の施工や水処理設備機器の納入を達成しました。



栗野町・吉松町衛生処理施設(鹿児島県)



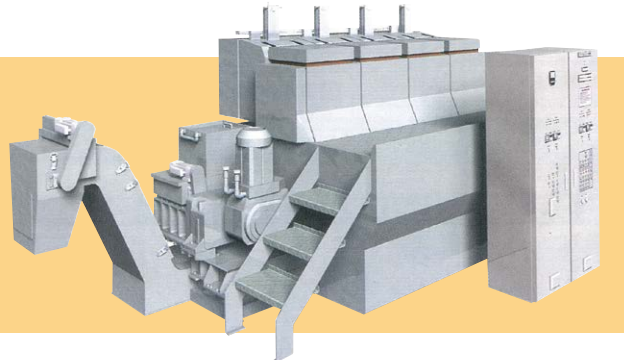
武庫川下流浄化センター細目スクリーン(兵庫県)



西宮市下水処理場(兵庫県)

医療廃棄物 処理装置事業の“想い”

命を繋ぐ医療現場の安全を守る使命



現代社会を生きる私たちにとって、日々大量に廃棄されるゴミ問題は大きな課題です。

中でも私たちは、人々の命、健康を守るため、第一線となる医療現場から排出される感染性廃棄物の処理問題に

いち早く着眼し、安全な処理を素早く実現するため特殊な感染性廃棄物処理装置の普及、設置に努めてまいりました。

新型コロナウイルスによるパンデミックをはじめとし、各種ウイルスや感染症への対策が重要視される現代において、

医療廃棄物処理装置事業は、自慢の事業の一つです。



白鷺病院(大阪府)



北野病院(大阪府)



100年の軌跡 47都道府県 全国制覇

● 環境装置事業の実績

● 医療廃棄物処理装置事業の実績

01 北海道

- 富里ダム
- 豊平川下水処理場
- 茨戸下水処理場
- NTT東日本札幌病院
- 札幌北嶺病院
- 市立小樽第二病院

02 青森県

- 田川清掃工場
- 弘前地区中央衛生センター
- ESTクリニック

03 岩手県

- 遠野市綾織地区

04 宮城県

- 登米市衛生センター

05 秋田県

- 森吉町堆肥センター

06 山形県

- 鶴岡市クリーンセンター

07 福島県

- 片島ポンプ場

08 茨城県

- つくば市酒丸中継ポンプ場
- 滑川処理場
- 竜ヶ崎市処理場

09 栃木県

- 二宮東部地区農業集落排水処理場
- 東横田清掃工場
- 西吾妻衛生センター

10 群馬県

- 川口市領家衛生センター

11 埼玉県

- 清流園処理場
- 東松山市環境センター
- 蕨戸田処理場

12 千葉県

- 館山市污水処理場
- 千葉市南部浄化センター
- 習志野市処理場

13 東京都

- 浮間水再生センター
- 葛西水再生センター
- 小菅水再生センター
- 篠崎ポンプ場
- 芝浦水再生センター
- 佃島ポンプ場
- 東京都南部スラッジ
- 中川水再生センター
- 中野水再生センター
- 南部汚泥処理プラント
- 東糞谷ポンプ所
- 三園浄水場
- 南多摩水再生センター
- 三宅村汚泥再生処理センター
- 森ヶ崎水再生センター
- LSIメディアス
- 玉川病院

14 神奈川県

- 金沢水再生センター
- 等々力水処理センター
- 横浜市南部汚泥資源化センター
- 腎健クリニック
- 徳田病院

15 新潟県

- 奥阿賀クリーンセンター
- 加茂浄化センター
- 上越市清掃センター
- 高見中継ポンプ所
- 魚津市浄化センター

16 富山県

- 金沢市西部水質管理センター

17 石川県

- 金沢市浅野第3ポンプ場
- 輪島市し尿処理場
- 敦賀市衛生処理場

18 福井県

- 敦賀市天筒浄化センター
- 福井市境浄化センター
- 富士北麓浄化センター

19 山梨県

- 麻績村桑山地区処理施設

20 長野県

- 輝山会記念病院

21 岐阜県

- 恵那郡北部衛生施設
- 大垣市し尿処理場
- 中津川市衛生センター
- 中津川処理場

22 静岡県

- 下田市柿崎ポンプ場
- 浜松西部衛生工場
- 富士宮市衛生プラント

23 愛知県

- 下飯田作業場
- 名古屋市港作業所
- 山崎下水処理場

24 三重県

- 朝明衛生処理場
- 北勢沿岸流域北部浄化センター
- 松阪市広域衛生センター

25 滋賀県

- 武内病院
- 大津市北部衛生プラント
- 近江八幡市第1クリーンセンター

26 京都府

- 彦根市衛生処理場
- 瀬田クリニック
- 石田水環境保全センター

27 大阪府

- 木津川市加茂浄化センター
- 京都市鳥羽処理場
- 福知山市和久市第1ポンプ場

- 安威川流域下水道岸部ポンプ場
- 貝塚市衛生事業所
- 国次抽水所

- 三宝下水処理場
- 泉北環境整備施設組合第1事業所
- 寝屋川南部流域下水道

- 枚方市北部下水処理場
- 松原市サニテーション
- 八尾市処理場

- 大和川下流域下水道小吹台中継ポンプ場
- 淀川左岸流域下水道組合渚処理場
- 緑風園第二事業所

- 池田クリニック
- 石切生喜病院
- 大阪赤十字病院

- 門真けいじん会クリニック
- 関西医科大学附属枚方病院
- 関西電力病院

- 北野病院
- 三康診療所
- 三康病院附属診療所

- 白鷺病院
- 住友病院
- 豊中けいじん会クリニック

- 寝屋川けいじん会クリニック
- 羽原病院
- PL病院

- 藤井病院
- マックシール翼病院
- 耳原総合病院

- りんくう総合医療センター
- 市立泉佐野病院
- 尼崎市環境処理センター

28 兵庫県

- 加古郡衛生センター
- 加古川市尾上処理場
- 神戸市西部下水処理場

- 西宮下水処理場
- 武庫川下流浄化センター
- 和田山町竹田地区処理場

- 永仁会病院
- 上牧町ごみ中継施設
- 五条市処理場

29 奈良県

- 下市町処理場
- 奈良市衛生浄化センター
- 宇陀市立病院

- 王寺診療所
- 香芝生喜病院
- 翠悠会診療所

● 高田診療所

● 田畑医院

● 中辻医院

● 西の京病院

30 和歌山県

- 富田川衛生処理場
- 三尾川クリーンセンター
- 湯浅町農集田地区污水处理施設

31 鳥取県

- 秋里下水終末処理場
- 江府町下蚊屋地区処理場
- 穴道湖東部浄化センター

32 島根県

- 水島下水処理場

33 岡山県

- 和気町和気浄化センター
- 因島市し尿処理場
- 東広島市処理場

34 広島県

- 防府市処理場
- 小松島市外3町村処理場
- 文化の森総合公園

35 山口県

- 鴨島川崎クリニック
- 川島病院
- 鳴門川島クリニック

36 徳島県

- 多度津町港町汚水中継ポンプ場
- 宮野病院
- 新居浜市処分場

37 香川県

- 八幡浜市真穴地区汚水中継ポンプ場
- 高吾北衛生センター
- 大牟田市港清掃事業所

38 愛媛県

- 遠賀・中間地域広域処理場
- 折尾ポンプ場
- 久留米市中央浄化センター

39 高知県

- 曾根浄化センター
- 豊前広域環境センター
- 済生会福岡総合病院

40 福岡県

- 済生会二日市病院
- 博愛会病院
- 唐津市浄化センター

41 佐賀県

- 東与賀浄化センター
- アメリカ海軍佐世保基地
- 崎戸平島汚泥再生センター

42 長崎県

- 長崎市北部下水処理場
- 高島町し尿処理場
- 秋津終末処理場

43 熊本県

- 大阿蘇衛生センター
- 上天草衛生センター
- 人吉球磨広域地区

44 大分県

- 清浄園し尿処理場
- 湯布院町衛生処理場
- 延岡市し尿処理場

45 宮崎県

- 宮崎サファリーパーク
- 宮崎市木花処理場
- 都城市中央終末処理場

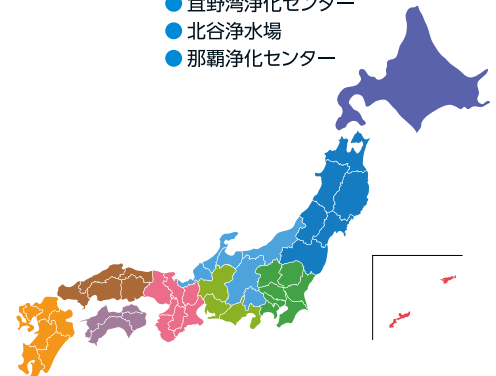
46 鹿児島県

- 上甕村・中甕中野浄化センター
- 喜野町水質浄化センター
- 徳之島浄化センター

47 沖縄県

- 石垣市汚水中継ポンプ場
- 宜野湾浄化センター
- 北谷浄水場

- 那覇浄化センター



現役社員から～次の世代への“想い” ～100年のバトンを繋ぐ任務を胸に～

管工事業
工事部 部長 **片山 憲彦** (1995年4月入社)



サノヤス・エンテック株式会社は2025年に100周年を迎えることができました。
長きに渡り私たちを支え、応援してくださった皆様に心より御礼申し上げます。

建設業の機械設備施工管理として建物の給排水設備・消火設備・空調設備・換気設備工事で、皆様の生活を支える一端を担っていると考えます。

この100年を振り返ると、高度経済成長期によりインフラの整備が加速し、建設ラッシュになり、事業展開していましたが、バブル崩壊により、事業が縮小してきました。

私が入社したのは阪神淡路大震災の年でした。建物等が倒壊している映像を見ていて復興には時間がかかると思いました。当社に入社した時には仮設住宅工事等復興に貢献していました。私の最初の現場はゴルフ場のクラブハウス新築工事でした。仕事内容や施工プロセス等全くわかりませんでした。ゴルフ場の建設現場では土木工事がメインでしたが、見たことない大型ダンプや重機やダイナマイトを使用しての工事を見て規模がすごいと思いました。それから30年が経ちました。現場施工管理の仕事は30年前とほぼ変わっていませんが、施工図が手書きから、CADに代わり、発注・客先打合せ等がFAXからメールになり、施工管理の書類が手書きから、電子書類になり、工事写真もデジタルになり、かなり効率化してきました。これからはIT化により施工管理が変わっていくのではないかと思います。

私たちは建設業のサブコンとして支えるだけでなく“皆様の生活を豊かにし、喜びを届ける”という使命を胸に、業務を遂行してきました。これからの100年は過去の経験を自信に変え、様々なことに挑戦すると共に、先代より守り続けてきた“人が財産”の精神を胸に刻み、社員とその家族共々新たな一歩を踏み出します。我々は更なる発展を目指し挑戦を続けます。



神戸アイスアリーナ
[HAT神戸 Ice Campus] (兵庫県)



現場での風景



トナリエ星田 (大阪府)

みのおキューズモール (大阪府)



懐かしいヤマダ時代

管工事業
東京工事部 課長 **花房 範浩** (2006年7月入社)

東京支店 事務所にて



この度、サノヤス・エンテック株式会社は2025年、100周年を迎えることができました。

私が入社した頃は今のサノヤス・エンテック東京支店ではなく、山田工業東京本店という名で管工事東京技術部に所属し三井住友銀行の施設改修工事・修繕工事を中心に仕事に従事しておりました。

当時は東京管工事には7名の管工事社員がいましたが私が入社したのち1～2年ほどで5名の方が退社されてしまいました。辞める方が多く少々不安を感じていた事を思い出します。

その後東京支店となり、社員数も多少の増減がありながらも少ない人数ではありましたが支店社員力を合わせ頑張ってもらいました。昼夜で仕事する事も多く大変ではありましたが。

2022年4月よりサノヤス・エンテックと社名が変わり人数も増えてきて組織全体が変革してまいりました。私が入社した頃とは別会社

のような組織になろうとしております。私が入社する前の山田工業は大きな工事をするような会社でした。今の東京支店が入居しているフロアに1社で入っているくらい社員もいたそうです。今は会社の働き方もだいぶ変わりましたが、これから次の100年に向けて新サノヤス・エンテックの社員として皆力合わせて社員とその家族、今まで会社を支えてくださった諸先輩方から「いい会社になったね」と言っていただけるような会社になるよう微力ながら尽力して参りたいと思います。



三井住友銀行 Olive LOUNGE 都立大学駅前

医療・環境装置部 次長 **高山 正和** (2011年3月入社)

社名変更時、
福岡支店新看板前で



私が当時の山田工業に入社した時は、プラント工事(下水処理施設、し尿処理施設の設備更新、新設工事)と、前処理機(ドラムスクリーン、スクリーブレス)の製造・販売及びオーバーホール等のメンテナンス業務を行っていました。現在は、プラント工事の受注はしておらず、前処理機の製造・販売、メンテナンス業務を行っております。

私は、福岡支店に入社しましたが、個性的な方々がおられました。残業をしていると後ろのほうから「チーン」と音が聞こえたら、おいしいような匂いが漂ってきて、見てみると設計をしているある方が、晩御飯を食べていることが頻繁に有りました。その方はエピソードが豊富で、新設の現場立ち上げに立ち会っていた時に、処理場に生活スペースを設け寝泊りをしていたこともあったそうです。他にも設計をしていた方ですが、CADや使用するソフトに独特なこだわりが有り、資料の内容をパソコンで閲覧が出来ず苦労した事が有りました。当時の印象としては、とても個性的な人たちが自由な発想で仕事をしていたように思います。

また、入社してすぐに社内研修として本社に3か月ほどいる期間が有ったのですが、当時は十三に社宅が有ったので、社宅から当時の本社(淀屋橋)まで通っていました。社宅には寮長がおり、何階建てか忘れましたが1フロアに寮長のご家族がお住まいになっていました。別の階は倉庫になっており、たくさんの炊飯器と湯沸かしポットが置かれていたのが印象に残っています。

当時の本社(淀屋橋)も現在のように全員の顔が見える広いフロアではなく、2階に管工事と医療、環境の方がおり、3階に管理本部が有ったと思います。机も合板で囲まれた個人が集中しやすい個性的な工夫が施された環境になっていたと思います。



松原市サニテーション (大阪府)

スクリーブレス

そして、本社での研修最後の仕事が、淀屋橋から現在の日本橋への引っ越しでした。もちろん、研修で本社に来ていたので、現場業務も含め基本を教えていただきました。

福岡に戻ってからは、メンテナンス業務を行いながら色々な事を学ばせてもらい現在に至っております。

100周年を迎え、当社はもちろん、共に仕事をするパートナー企業の皆様と良好な関係をさらに強固なものとし、成長・発展していただける様、微力ではありますが日々の仕事に取り組んでまいります。

旅の 記念撮影

先輩方の笑顔
あの頃の“想い”



1982年(昭和57年) 東尋坊(福井県)



1990年(平成2年) リトルワールド(愛知県)



1991年(平成3年) アドベンチャーワールド(和歌山県)



1994年(平成6年) 浜名湖(静岡県)



1996年(平成8年) 天橋立(京都府)



1997年(平成9年) 安芸の宮島(広島県)



1998年(平成10年) 那智の滝(和歌山県)

この先の未来へ

私たち、サノヤス・エンテックの社員は
多くの皆様に支えられ、創業100周年を迎えることができました。

今日、この瞬間からまた1歩
より豊かな社会環境の創造の為に、空気と水のコントロールにプライドを持ち、
100年守った“想い”やりの技術を未来の「ありがとう」に、繋げてまいります。



2024年(令和6年) 業績表彰のお祝い
本社集合大宴会(なんば 法善寺横丁付近)

キャリア採用者も多く、“顔合わせ、心合わせそして力合わせ”に向けて、
東京支店、福岡支店、本社の全社合同開催

“ええ会社”を目指して



100年分の“想い”やりを 未来に繋ぐ

『管工事』・『環境装置』・『医療廃棄物処理装置』

3つの事業の“想い”が協力し、

より豊かな社会環境の創造のため、尽力して参ります。



サノヤス・エンテック株式会社
Sanoyas Entech Corporation